２０２５年2月１６日（顕現後第６主日、Ｃ年）
牧師メッセージ
「幸いなあなたがた、不幸なあなたがた」
（ルカによる福音書6:17-26）

司祭ヨセフ太田信三

「今日の福音は、マタイによる福音書では「山上の説教」で語られる箇所です。しかし、マタイ福音書とルカ福音書では、内容も場面設定も異なります。たとえば、マタイ福音書では山上で一部の弟子だけに語られていますが、ルカ福音書では平地で沢山の人に向かって語られています。

イエスが山で十二人の使徒を選び下山しました。すると、１２人以外の沢山の弟子たちや、ユダヤのみならず広範囲からの人々がイエスの話しを聴くために集まってきました。イエスは「目を上げ」て、「貧しい人々は、幸いである…」と語り出しました。この「目を上げる」という表現は、「目が向けられた対象への深い関心」を表します。その目に写っていたのは、１２人の弟子たちだけではありません。下山後にイエスのもとに集まった大勢の弟子や、おびただしい人々がいました。イエスの話を聴きたい、病をいやしていただきたいと願う人々です。そして、そこにいたのは、貧しい人、飢えている人、泣いている人、憎まれている人でした。イエスは、深い関心を持ってこの人々を見つめ、「あなたがたこそ幸いだ」と言われたのです。

イエスは私たちのことを見つめ、心から思ってくださる方です。イエスの憐れみとは、人間としての同情というだけではありません。その憐れみは、神の人間への思いそのものです。神はわたしたちの苦しみを苦しみのままに終わらせない方です。おびただしい数の人を見つめ、語りかけるイエスを通して、その神の憐れみが私たちにも示されています。

イエスは「幸い」と語るときにも、「不幸だ」と語るときにも、「あなたがた」と語りかけます。私たちのなかに「幸い」と「不幸」のそれぞれの道を望む思いがあるからです。神を頼って生きるのか、それとも、富やこの世の権力に頼って生きるのか、私たちは選択することができます。後者を選ぶなら、「あなたがたは不幸だ。」と言われるように、これから先の喜びはありません。なぜなら、「もう慰めを受けている」からです。「受けている」と訳された言葉は、商業用語とされ、借金の返済を受け終わり、負債者に何も要求できない、「十分に受け取った」ことを表します。このことは、逆の視点から見ると、誰にも何も分け与えていない状態を表しています。持っているものを分けず、自らの慰め、満腹、笑いのためだけに利用しているのです。しかし、自分の富だけを守ろうとするのではなく、他者と分かち合うなら、「受ける」喜びがあります。そこにこそ、神からの報い、喜び踊るほどの幸いがあります。